

# 棚田学会通信

第12号 2004年3月10日

発行/棚田学会

〒184-8577

東京都小金井市本町 6-5-3

(ふるさときやらばん内)

TEL:042-381-6721

FAX:042-383-8614



## 目次

**表紙の写真** 新潟県安塚町上船の棚田

### 巻頭言

棚田はスローライフである .....新潟県安塚町長・矢野 学...1

### 各地の情報

韓国の棚田.....高麗大学 民族文化研究院・丁 致榮...1

埼玉県横瀬町寺坂の棚田 ..... J A東京むさし・土屋わかな...2

### 日本の棚田百選の紹介

山形県大蔵村の棚田 .....山形県大蔵村・早坂勇一...3

### 現地見学会に参加して

兵庫県加美町の棚田現地見学会 .....田中哲二・青柳富雄・青山淳二・弘中征男...4

### 第9回全国棚田（千枚田）サミットに参加して

恵那市全国棚田サミット雑感.....

.....千葉県鴨川市大山千枚田親睦（オーナー、トラスト）会世話人代表・伊東春海...5

### 官庁ニュース

「農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究について」

.....文化庁文化財部記念物課・本中 眞...6

### 棚田学会事務局報告

国際コメ年関連企画「アジアの原風景・棚田体験展」について ..... 7

## — [巻頭言] —

### 棚田はスローライフである

新潟県安塚町長 矢野 学

棚田はここ数年の間に多くの人によって語られ、撮られ、耕され、話題も提供してきた。棚田でくらすものにとって、棚田はエライと現場を見たり、耕作してエラサを実感してくれた人々に感謝せねばならない。

イラク戦争、北朝鮮の拉致問題など、報道で知られることから推察するに、なんとも縁も棚田も無い国かと思う。いわば、稲作文化としての、出会い、つき合い、助け合いが失われ、自分の都合による生活に翻弄されているのかもしれない。

一方、日本の国の人々を見るとときに、海外旅行をしている日本人の評価は「あの人たちは、何族」ということらしい。みな同じものを持ち、髪形は色づき、マナーは身につけていない、らしい。

棚田を耕してみた人は解るであろうが、汗が出る、力が要る、腰も痛い、ましてやお互いに力を合わせて共同の作業が必要だ、だから、棚田はコミュニティや稲作、土を好む人から成り立っている。

1、汗がすき。1、協働がいい。1、力がある。1、うまいお米を食いたい。1、土が好き。

など、棚田を維持するには、こんな人々が集まらねばならない。

「あの日本人は、何族」といわれるような人は勤まらないのである。

耕す人々は、そこに棚田があるから、米が穫れるから、土が好きだから耕す、そして、ゆったり、ゆっくり、自分なりの豊かさを味わう、だから、平均的な所得の補償があればいい、国民理解、農村への無駄遣い、などという論理ではなく、多様な国民の生活の仕方を提唱するおおらかな国づくりのために補償制度をきちんとすればいいのである。

ちなみに、ここ数年来、田舎体験事業が好評で、棚田を利用して小、中学生が都市から来てくれているが、棚田を持つ農家に民宿することが学生の心を変えるという事例が多い。田舎体験メニューは100位あり、何よりも、農家の人柄に負うところが多い。稲わらを燃す、カエルを見つける、田んぼに入ったなど教育者、父母、保護者に代わって人間教育をしているのである。

自然の動植物、環境などの異変は人間の勝手さから破壊が始まっているが、下流の都市にも人間らしさを失わせる破壊が起きていることを思うと、1兆円規模の補償など安いものであろう。

さて、棚田は棚田を持つものが耕さねば意味が無い。当町にこのほど耕地の荒廃、担い手の不足による農業の衰退に歯止めをかけるべく、NPO法人「ゆきの里山」暮らしのネットワークが若さのある人たちで設立された。

これからの棚田は、人間的なスローライフを楽しみながら、棚田は人間教育もしてくれるエライ財産だと思う人々の集まりで、輝いていたいものだ。

## — [各地の情報] —

### 韓国<sup>チリ</sup>智異山地の棚田

高麗大学 民族文化研究院

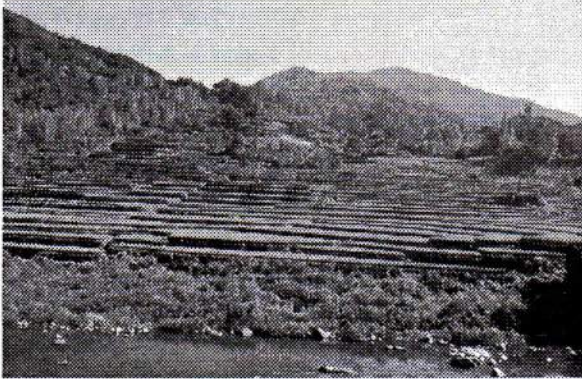
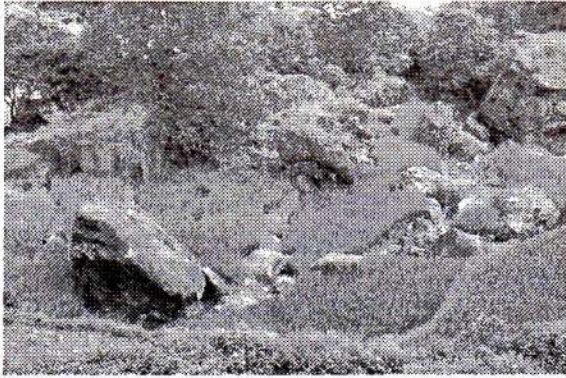
丁 致榮(ジョン チヨン)

国土の7割が山地に占められ、稲作を中心とする農業が営まれてきた韓国には、古くから棚田が拓かれてきた。韓国では棚田を「階段式水田」と呼んで、全国にわたって棚田が分布している。その中でもっとも棚田が卓越する地域は、韓国南部地方の代表的な山村地域である智異山一帯である。

智異山地は、海拔1,500m級の峰々が連なり、韓半島の南部では最も高く、一帯の面積が700k㎡を上回る大きな山塊を成している。主稜線

を中心に南と北に延びている支脈の間には緩やかな傾斜をもつ約20カ所の谷が形成されており、古くから人々の生活空間として利用されてきた。気候的には高度によって気温の変化が激しく、日較差も大きい。年平均降水量は1,500mm前後と、韓国の代表的な多雨地帯である。一方、智異山地の植生はクスギなどのブナ林が主であり、農業には好条件である。

智異山地における棚田の造成は17世紀から本格的に始まった。智異山地の棚田は初めから水田で開墾したケースよりも、焼畑から畑に、さらに畑から水田といった過程を経て、開発されたケースが多かった。このように17世紀に入って、棚田の造成が本格化された要因としては、戦争、飢饉、伝染病などを避けるために多くの人々が移住し、地域人口が急増したことや、移住民の大部分が稲作地帯の農民出身であ



智異山地の棚田

ったこと、その当時の最も価値が高い商品が米であったこと、韓国人にとって米は単純な食糧または商品以上の意味をもつことなどが重要である。

棚田の造成過程は、まず立地の選定から始まった。立地選定に当たっては、第一の条件である水をはじめ、傾斜度、植生、日照、農家との距離などが考慮された。一方、造成作業は植生の除去→傾斜地の切開→石で畦畔を築く→表土を敷く→田面の平坦化→水路造成の順に行われる。

智異山地の棚田の特徴を見ると、畦畔はすべて自然石で造られており、その高さは原地形の傾斜によって差異があるものの、およそ1-2m前後である。1区画当たりの面積がとても小さく、過去には1区画が1坪にも満たないことも多かった。また、元の土壌の中では石が多く、表土の土被りが薄いため、排水には良好である。そのほか、農道が不備であること、通作距離が遠いことなど、棚田で見られる一般的な特徴も併せ持っている。

智異山地の棚田は、そのほとんどが溪流灌漑に頼っている。棚田の近くに流れる溪流水を堰（韓国ではポという）でせき止め、水路を通じて引水する。堰ごとに水利組織が形成され、その規模は堰の大きさと灌漑範囲によって一家族単位から村単位までさまざまである。山地の溪流水は、水量が豊富であるが、水温が低いため、

冷害の原因になる。智異山地では、冷害を防ぐために止水灌漑法や、様々な漏水防止対策、そして迂回水路などが用いられてきた。

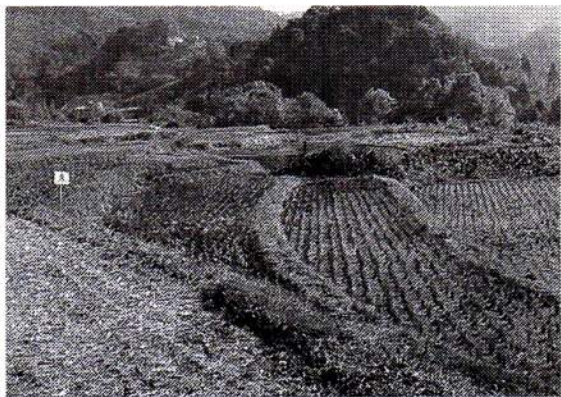
1970年代以降、智異山地の棚田は圃場の拡張と整理、農道の整備、農業機械の導入などにより、生産性がかなり向上したが、一方では耕作放棄地も拡大した。このような状況の原因は、韓国全体の問題と智異山地のみの問題とに分けて見ることができよう。全体の問題としては、稲作の競争力の弱体化、工業化・都市化による急速な山村人口の減少などがある。一方智異山地は、1967年に韓国最初の国立公園に指定され、山林の厳しい保護によって有害鳥獣虫の増加、日照時間の減少により、農業環境のさらなる悪化が進んでいる。

しかし現在に至るまで、韓国では棚田の保存についての関心は低いと言わざるを得ない。棚田の多面的な機能を考えると、韓国でもこれから棚田の保存に関する活発な議論が求められる。

### 寺坂棚田の棚田学講座に参加して

JA 東京むさし 土屋わかな

埼玉県横瀬町の寺坂棚田は、東京から一番近いのではないかとされる棚田です。ここ横瀬町で棚田学講座が10月12、19日、11月16日、12月6日の合計4回開催され、そのうちの3回に参加させていただきました。講義は、寺坂棚田に関する内容の棚田の生き物、棚田学校の設立、寺坂周辺の文化財と歴史をはじめ、稲作の歴史、古代の水田、古代米の品種と栽培法、環境変化のなかの棚田、世界の食料・環境問題と幅広い話題が扱われました。



収穫を終えた寺坂棚田

棚田の生き物についての講義では、寺坂棚田に生息する水生生物のゲンゴロウやカゲロウ、ヤゴ、ミズムシなどの標本を見たり、日本の米とタイ米の違いや赤米を比較したりするなど、目で見て楽しむことができました。他にも寺坂遺跡や文化財についての話、水田がどのように

つくられていったかを弥生時代以降の水田跡から解説するなど興味深い講義が多くありました。

最終日の講義では、参加者から多くの意見が集まりました。地元の方からは、今放棄されているところも全部田んぼにしたいという願いがあり、寺坂の棚田には蛭が生息することから、蛭を育てて鑑賞会をしたいという意見もありました。棚田の学校で昔の機械を使用した農作業体験、有機米の栽培、放棄地へのそばの栽培とそば打ち体験の実施、水が溜まりやすい一部分を湿生植物園にするなど様々なアイデアが提案されました。また宅地化を防ぐための景観保護法のような条例はつくれないだろうかという課題も出されました。

寺坂棚田へも足を運ぶ機会がありました。西武秩父線の横瀬駅から近く、住宅街を抜けるとぽっかりと広々とした空間があり、その斜面に田んぼが広がっていました。斜面の上部は放棄されているところが多く、そこにはコスモスが植えられ、秋にはきれいに咲いていたそうです。棚田の中腹から上部にかけては所々畑になったり、果樹が植えられたり、放棄されている部分が見られました。上から眺めると下へ向かうその棚田の姿は意外にも広く、このすべてが田んぼになったらとてもすばらしい棚田になることが想像されます。

今回のような棚田学講座が単なる勉強会にとどまらず、様々なアイデアや課題そして活力を生み出す場になるのだということを実感しました。そして、棚田の学校や棚田学講座を実施することで、横瀬町の寺坂棚田を中心とした活動がより活発になってゆくこと期待しています。

## — [日本の棚田百選の紹介] —

### 「四ヶ村の棚田」 棚田に新たな魅力を

山形県大蔵村農林課農地係長 早坂 勇一



四ヶ村の棚田は今、純白の雪のペールに包まれ、静かにしかし着実にその歩みを春へと進めている。

私が、四ヶ村棚田にかかわり始めたのは、昨年4月に農林課に配属されてからだ。

肘折温泉に向うつづら折の国道458号線から左に曲がり、さほど長くもないトンネルを抜けると、視界が急に広くなり、突然別世界にきたようになる。そこが「四ヶ村の棚田」の入り口である。

大蔵村は、山形県のほぼ中央部に位置し、形としては、一言でいうとサツマイモ。四ヶ村の棚田は、そのさらに中央部にある。村の中央を国道458号線が縦断し先端部に名湯肘折温泉郷があり、中央部東側に棚田は位置している。

四ヶ村という呼び名は、トンネルを抜けた先の、豊牧、滝の沢、沼の台、平林の四集落の総称であり、呼び方をシカムラという。この地区全体に広がる何百もの段差のある田園風景を、「四ヶ村の棚田」と呼んでいる。

平成11年7月26日に当時の農林水産大臣の中川昭一氏から「四ヶ村の棚田」が「日本の棚田百選」に認定された。そして、平成15年11月には山形経済同友会主催第一回「次代につながる山形景観賞」の同友会奨励賞に選ばれた。

認定された豊牧地区の横道沢の圃場枚数は135枚、面積は12.5㌥で、県内のみならず、東北で最大規模の棚田である。棚田最下部から見上げると空が丸く見えてしまうほど広大で、まるで自然のスタジアムの中にいるような錯覚に陥る。

このような段々の美しい棚田が、四ヶ村各地に見ることが出来る。

この地区は地すべりの危険に広くさらされているが、この棚田の畦畔が地すべりの防止に大きな役割を果たし、住民の生命を守ってきた永い歴史がある。しかしながら、維持と管理に多大な労力を費やしてきた歴史もまた同居する。

聞けば、現在の棚田は時代の変遷とともに、畦畔補修や農業の近代化による農業機械の導入から、必然的に整備や改良が行われてきた。しかし現在も山側の耕地は作土が浅い反面、谷側は深く農業機械の侵入を拒んでいる。特に平成15年は日照不足と長雨の天候不順により、刈取り時期には農業機械が圃場にぬかってしまい、皆で機械を押しながら作業する光景が随所で見られた。

現在までのことを考えるとき、この地区に住み守り続けてきた人々の苦労や努力には頭が下がるばかりか、まさに賞賛に値するものである。

平成15年春、ここ四ヶ村では様々な技を持

った住民が集い、柵田保存委員会が発足。柵田の保存と地域活性化に向けた取組みが継続して行われている。

5月に柵田の見晴らし小屋の建設、10月には柵田の観光性をアピールする目的で「四ヶ村柵田写真コンクール」が企画された。県内外の写真家が柵田に何度も足を運び、時間とともに移り変わる、生きる柵田を撮影していた。時には、柵田撮影のベストポイントを問い掛けられた地区の人たちが現地まで案内するなど、広い交流も生まれた。こうした出展作品はどれもすばらしく、選考に苦慮したほどで、現在は地元「ふるさと味来館」に展示されている。

柵田は今後も農業の変遷とともにその形態を変えるであろうと思うが、次代に引き継ぐ景観が維持され、願わくは、四ヶ村柵田保存委員会が歩む先には、目先の配慮にとらわれる農業政策には左右されることのない、永い歴史と新しい思想(かぜ)の同居する、息の長い活動を期待するものである。

現在1月。厳しさを増す雪と寒さが与える春の訪れへの一層の希望。それは柵田と私たちが抱く、新たな息吹への目覚めであろう。

大蔵村「四ヶ村の柵田」に新たな魅力を見いだすあなたが今、輝き出す。

〒996-0212 山形県最上郡大蔵村大字清水  
2528 番地 0233-75-2111(代)FAX75-2231  
nourin06365@yahoo.co.jp

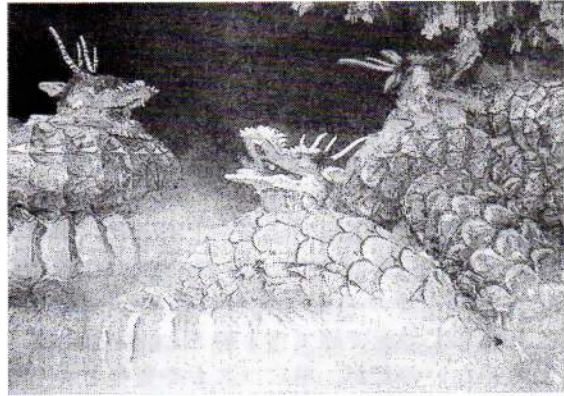
## — [現地見学会に参加して] —

柵田学会現地見学会に参加して

神戸市在住 田中 哲二

島根県柵木村の大井谷を訪れたのは、一昨年の3月以来1年半ぶりであった。最大時には17haあった田も、今は6haに減少している。かつては隣の山にまで弁当持参で耕作にしていたそうだ。人手は減るし、米の需要は減るしで、杉を植えたり放置したりで、田は山に戻ってしまったが、「こんなに柵田が注目されるとは当時は考えもしなかったので、今から思えば惜しいことをした。残しておけばよかった。」と地元のご婦人がおっしゃっていた言葉は重い。地区全体が見渡せる展望台で、地元と広島府の研究者から大井谷柵田の概要の解説を受けた。徹底して調査された成果は、柵田を理解するための貴重な資料となる。ここから眺める等高線に素直に沿った柵田の風景は典型的で美しい。幅が一定なので作業効率も直線的に整備された田に比べて悪くはなさそうである。小さな集落で30区画の柵田オーナー制と、数十組の柵田トラスト制を維持されているのは、地元

の皆さんの相当な熱意と実行力を感じた。柵田に対する理解も広がり、地区の活性化にもつながるだろう。ただ、全ての柵田がこうあるべきかということ、そうでもないのではないかという気がする。根本的には持続的な柵田の維持ができていないからだ。本当の農家が育つ環境を作らなければならない。そして、出来ることなら柵田には静かに風が吹いていて欲しい。



情熱の舞・石見神楽「大蛇」のクライマックス

島根県柵木村大井谷の柵田は初冬の佇まいでした

福岡県太宰府市在住 青柳 富雄

柵田を活かした地域づくりをめざす「助はんどうの会」があり、その由来の地(助はんどう)に案内され、これを名称にしたことは意義深いことと思います。また、地元食材による接待を受け「身土不二」と嘯みしめ、神楽も舞われ柵木の文化に触れました。

柵田を活かした真摯なとりくみに敬意を表します。お世話になりました。感謝します。

第8回柵田学会現地見学会

— 島根県柵木村—に参加して

京都府在住 青山 淳二

2003年11月1日(土)から11月2日(日)にかけて島根県鹿足郡柵木村において第8回柵田学会現地見学会が開催された。私は、この「陸の孤島」への到達経路と、有機農業の調査を課題に、現地見学会開催2日前の10月30日早朝に京都を出発し智頭鉄道や姫新線、芸備線、三江線、山陰線、山口線と乗り継ぎ青原駅下車。高速バスで峠を越え、「大井谷柵田入口」の看板を見ると、すぐ柵木商工会館前バス停に無事到着。午後、開会の挨拶の後バスに分乗し大井谷柵田へ。柵田のよく見渡せる公園の小山の頂上で、柵木村役場の関係者や大井谷の柵田歴史研究部会調査員の先生方の説明を聞き、柵田や集落内を巡検。現地見学会後会場へ戻り、大井谷の柵田歴史研究部会調査員の先生方の調査研

究報告を聞き、夕食・交流会場では地元の方々の手料理や地元の山海の幸をご馳走になり、石見神楽の観賞。柿木温泉入浴後旅館で恒例の二次会。翌日は中島副会長をコーディネーターにパネルディスカッションが行われ午後は希望者のみ古老の話を聞く場が設定され閉会。私は帰路に木次線を選び、実り多い充実した現地見学会となりました。

柿木村の棚田現地見学会・交流会に参加して  
—大井谷の小宇宙空間から—

神戸市在住 弘中 征男

初めての大井谷の棚田の小宇宙盆地空間。

入口ともいえる村道のループ式橋梁のすぐ下では農産物加工場が工事中であった。補助金の対象は厨房器だけであり、あとは山口県徳山市近くの工場から提供を受けた廃材プレハブを利用して地元で建てるとのこと。いまだ突き詰め得ないのだが、単にコストや資金といった次元を超えた保全のあり方に対する何かひとつの普遍的なカギが秘められていると直感した。

そのすぐ上にあがると昭和4年2月お生まれの田村正弘氏が牛小屋の前に偶然おられ、牛や牛耕についてお話し下さった。特に棚田の狭長なところでも綱さばきひとつで余すところなく犁ききれるといった牛と犁と耕地形態の関係から、体験に基づく牛や耕地に対する微細かつ微妙な感覚そのものがひとつの伝承の内実ともいえるものになるのではないかと改めて思った。

日程最後の大井谷集会所での地元4名の方からお話をお聞きする会では更にその思いを深くするとともに、お話しいただいた動植物(ゴギ・ヤマメ・熊・猪・柿木・三椏・畦作りの大豆など)、石垣、焼畑(昭和30年代前半頃まで)、紙すき、炭焼き、出稼ぎや兼業、地神(じしん)申し・ムシキトウ・キャクマツリなどの年中行事や祭礼等々の棚田を取り巻く様々な事柄により、かえって棚田そのものとそのあり方に対する理解を深めることができた。

交流会でのダイナミックな神楽の舞や太鼓の音や大井谷の小宇宙の景観がいまもふとよみがえってくる。

#### インフォメーション

青柳健二写真展 アジア稲作の旅 オリザ  
日時：2004年3月11日～23日・10時～19時  
(17日休・最終日17時迄)  
会場：楽風(らふ 青山茶舗敷地内)  
埼玉県さいたま市浦和区岸町4-25-12  
浦和駅 徒歩7分 Tel：048-825-3910

#### — [第9回全国棚田(千枚田)サミットに参加して] —

#### 恵那市全国棚田サミット雑感

—街づくりと棚田保全—

東京都江戸川区在住 伊東春海

石積みの見事な坂折棚田。今年の全国棚田(千枚田)サミットは、岐阜県恵那市で9回目を迎えた。サミットの継続開催によって、棚田保全の議論、論点が深まり、里山の保全に光明が少し見えてきた感じだ。そこでサミット開催都市、恵那市の街づくりから棚田保全を考えてみたい。

恵那駅を出て全面に広がる街並の見事さを観た時、坂折棚田の保全にも何か関係しているのではないかと思った。駅前広場や大通り、横丁に至るまでよく整備され、紙屑一つ落ちていない。商店はもとより、しもた屋、駐車場なども手をかけ、いわゆるシャッター通りのような、生きる努力を放棄した怠惰な感じが、全くしなかったのである。左脚の痛さから交流会には出ず小料理屋に入った。鄙には稀な、といたげな店造りと客の入り。地方ほど景気が停滞している、と言うのに今どき珍しい状況が展開していた。

木曾谷の街に、どんな理由でこのような街づくりができたのであろうか。観光といっても観るべきものは少ない。失礼ながら中山道の宿場「大井宿」を中心にした4万人足らずの田舎街。隣接の中津川市には大工場があるが、恵那市にはない。数年前の駅前整備と言えば、他の自治体同様財政赤字に見舞われていたはず。市の才覚のありようは何か。判ることは商店だけでなく住民各層と行政が一体となって「街を良くしたい」との思いがあったからである。

坂折棚田が今日まで存続できた理由の一つに、損得を超え、生き抜くための米作りへの執念があっただろうことは間違いない。中野方小学校の棚田学習や恵那農業高校の取り組みにみられるように、若い人たちを巻き込んだ保全への試みは将来に希望が持てる。平成14年から始まったとすれば、背景に総合学習や棚田サミットがあったかも知れない。

平成元年「地方行政」5月29日号の道標に『まちづくり・その主役』と題して、恵那市長森川正昭氏が書いている。「都市が発展する原動力は何か。むろん、そのまちの経済力ということもあるが、これに加えて市民として、自分達の生活の場であるまちを守り育てようとする愛着の精神が活力のもとであると思う。」と述べている。このなかに棚田の保全まで含まれていたかどうかは触れられていない。だが、平成8年に「まちづくり基金市民活動助成事業」



恵那市坂折の棚田

が実施され、ちなみに平成 15 年度事業の「恵那棚田ネットワーク」活動に 20 万円が助成されている。さらに、恵那市まちづくり市民協会が本年 10 月に発足し、部会の一つに環境部会があることだ。

千葉県大山千枚田は、大都会に近い利点を活かしたオーナー制度等が棚田農業特区の認定もあってさらに加速するであろう。しかし、地元の若者や小中学生が参加していない。ここに恵那市の状況と違う将来への不安材料が存在している。棚田学会 8 月のシンポジウムのテーマ、大市町村合併による棚田保全の危機、存亡の状況も全国にはあるだろう。だが、大都会から遠隔地にある棚田では、恵那市の場合のように農林水産省の「ふるさと水と土基金」の狙いに合った、地域住民と共にを行う体制整備に向けた活動も大事である。いずれにしても、年月をかけた困難な米作りへの熱い思いを誇りに感じて生かせるのは、地元住民しかいない。中山間地域等直接支払制度など国や県の助成は、それらに呼応してこそ実効が挙がるというもの。棚田の保全はもっと多面的要素からの視点があってもいいのではないだろうか。

街づくり、村起こしの原点は、故郷の拠って立つ基盤をベースに、故郷の良さに惚れ込み、新たな発想をもって発展させることしかないのかも知れない。千葉県鴨川市大山千枚田親睦（オーナー、トラスト）会世話人代表

## — [官庁ニュース] —

### 「農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究」について

文化庁文化財部記念物課 本中 眞

はじめに一調査研究の背景と経緯 近年、農地・林地が環境保全及び災害防止などに寄与していることが注目され、各地で棚田・里山など農林水産業に関連する文化的景観（以下、「文化的景観」という）の保護に関する取組が進みつつある。また、平成 7 年には「フィリピン・

コルディレラの棚田」が世界文化遺産に登録され、国際的にも「文化的景観」が人間と自然との伝統的な関わりを示す重要な文化遺産として注目されるようになった。

このように「文化的景観」の保護の機運は国内外を問わず高まっており、これに適切に応えることが行政上の課題となっていることから、文化庁は「文化的景観」が有する文化的価値の保護について総括的な検討を行い、保護の対策を講ずべき地域の一覧表を作成するとともに、それらの保存・活用の方策について検討することを目的として、「農林水産業に関連する文化的景観の保存・整備・活用に関する検討委員会」（以下、検討委員会という。）を設置した。平成 12 年 10 月 25 日から平成 15 年 6 月 12 日までの計 5 回にわたる審議を踏まえ、検討委員会がまとめた『報告』の骨子は以下のとおりである。

調査の経過 所在調査によって確認した 2,311 の「文化的景観」の地域の中から、独特の性質・構成要素が認められ価値が高いもの、近年の改変による大規模な影響を受けず本質的な価値を伝えているものなど、516 の地域を対象として二次調査を行った。さらにその中から、独特の土地利用の典型的な形態を顕著に示すもの、固有の風土的特色を顕著に示すもの、多種類の異なる景観が複合し地域的特色を顕著に示すものなど、182 の地域を重要地域として選択し一覧表を作成した。

「文化的景観」の保護の方策 保護を講ずべき地域の中には、現状の制度の下に史跡名勝

天然記念物として指定できるものもあるが、その多くは地域に固有の風土的特色を表し、我が国の歴史上・学術上・芸術上・観賞上価値が高いものについて強い規制の下に保護を行う従来の指定制度では対応しきれない。また、「文化的景観」は多数の所有者から成る広大な土地に展開していることが多く、適切な規制の下に支援が可能となるような面的な保護制度を導入することが最もふさわしい。そのような観点から、検討委員会では、①現行の制度の下に保護することが可能なものについて引き続

き指定を進めつつ、②地方公共団体が条例により地域住民の合意に基づく面的な保護の措置を講じたものについて国が選定し、これに対し国が必要に応じて支援を行う制度を新たに創設できるように文化財保護法の所要の改正について検討すること、が提案された。

その後の展開 上記の調査研究の『報告』については、『月刊文化財』平成15年9月号(第一法規出版)において特集を組んでいるほか、文化庁のホームページ(<http://www.bunka.go.jp>)でも全文を配信しているので参照されたい。現在、文化庁では、『報告』を受けて文化財保護法の改正について慎重に検討を進めているところである。

## — [事務局ニュース] —

### 国際コメ年関連企画

#### 「アジアの原風景・棚田体験展」

#### &～国際水田・棚田フォーラム～

今年2004年8月9日(月)～14日(土)、東京日本橋三越本店7階ギャラリーと屋上を会場に、「アジアの原風景・棚田体験展」を棚田学会他主催で開催する事になりました。

[開催決定までの経過]

第29回棚田学会理事会2003年8月3日(日)において、篠原理事(当時農林水産省農林水産政策所長)を通して、国際コメ年日本委員会準備会(事務局・農林水産省国際部)より、棚田学会長の木村尚三郎氏を委員会会長にとの依頼がありました。

国際コメ年関連企画として、「アジアの原風景・棚田体験展」の企画が第30回理事会(10月11日開催)

で石塚副会長より提案、審議され、主催することを決定しました。

内容は別紙の通りです。



フィリピン・イフガオの棚田  
撮影：永田博義

### 編集後記

東北に雪解け水の流れはじめるこの時期、九州では田植えが始まろうとしている所もあります。こんな長い長い日本列島ですが、お米の文化は共通しています。春は田植え、夏は虫おくり、秋には収穫そして祭り。

2000年の歴史を持つ米作りは、日本人の文化を育んできました。

今年が国際コメ年。おコメの文化を見つめ直し、棚田のある豊かな日本の風土を守り、発展させたいものです。

H. T

## — [書籍紹介] —

通信では、毎号棚田に関する書籍をご紹介します。第1回目のご紹介は写真集です。

### 『棚田の四季』

写真：平松純宏

発行：グラフィック社

発行日：2002年5月25日

B4変型判

総96頁 カラー84頁

定価：本体2,900円(税別)

### 星野村棚田調査報告会

#### 「星野村の棚田はすごい！」

【日時】3月27日(土)午後2時～

【会場】「そよかぜ」星野村総合保険福祉センター

【内容】

#### ■第1部(午後2時～5時30分)

##### 調査者による報告

基調講演：「歴史から見た棚田(仮題)」

飯沼賢司(別府大)

基調講演：「棚田とまつり(仮題)」

小川直之(國學院大)

##### パネルディスカッション

#### 「星野村の棚田はやっぱりすごかった！」

司会：段上達雄(別府大)

パネラー：飯沼賢司、小川直之、加藤隆士(相模原市立博物館)、加藤仁美(九州芸工大)、服部英雄(九州大)、春山成子(東大)、石井里津子(石井事務所)

オブザーバー：大島暁雄(文化庁)

#### ■第2部(午後6時30分～8時30分)

##### 「もっと星野村の棚田を知ろう」

棚田保存会発表

星野中学生による研究成果発表

アトラクション：ふるさときゃらばん

※3年間の星野村棚田調査の報告を行います。会員の皆様のご参加をお待ちしております。詳しくは案内チラシをご覧ください。